

(第三種郵便物認可)

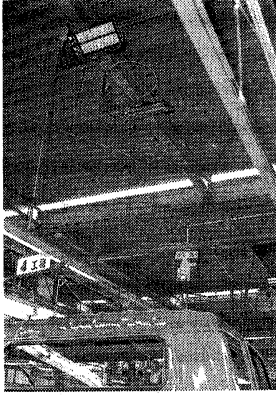
## 東洋システム

# 大空間向け暖房装置拡販

## 2年後 売上高1億円へ

【各務原】鶏卵用養鶏装置のトップメーカー、東洋システム(本社各務原市金属団地九七ノ四、安田勝彦社長)は、赤外線によるセラミックガス輻(ふく)射による暖房装置「ハイテムサンシャイン暖房システム」を拡販する。同システムは工場や体育館など大空間、開放空間向けの暖房装置で、太陽熱と同じ原理によって、暖めたい物体のみを赤外線で直接暖めるため、省エネルギー効果が高いのが特徴。平成八年に開発され、現在年間約五千平方メートル、五千万円の販売実績があるが、今後は販路を広げ、平成十七年には同一万平方メートル、一億円の売上げを見込んでいる。

同社は昭和四十七年の一器、環境制御型鶏舎など、野ではトップシェアを誇る創業。主に鶏卵用養鶏機を手掛けており、この分る。



「ハイテムサンシャイン暖房システム」の設置例

「ハイテムサンシャイン暖房システム」は、フランスのSBM社の赤外線輻射暖房に関する技術をもちに、同社の鶏舎管理のノウハウを応用して製品化したもの。

赤外線によるセラミックガス輻射暖房は、太陽光線と同じ原理。はるか一・五億年前の彼方にあ

る太陽の熱が春の陽だまりを作り出すのと同じように、三・五以上の天井にヒーターを取り付けることにより、人や周りの物体を効率よく暖める

のが特徴。途中の空気を暖めないで、燃料費が従来の温風暖房方式に比べて約半分で済むという。ゾーン暖房や暖房時間管理にも優れ、風が無く、工場などに導入してもホコリが立たないため、機械、電子・電気関係や食品工場などに最適としている。これまで全国で、車体メーカーや体育館など三十個所に納入実績があるが、温度管理やコストの面で好評を得ているという。最近の原油価格の高騰で、省エネルギーに対する意識が高まっている折、多目的ホールやショッピングセンターなどでの利用も見込み、拡販していく方針。